

変わやがトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

5月・・・年度当初の学校訪問

十島村教育長 有村 孝一

毎年5月のレントゲン便を利用して、鹿児島教育事務所と合同の学校訪問を実施しています。今年も5月18日から20日までの予定で実施することになっていました。しかし、あいにくの台風7号の影響で、予定が2日ほど延びてしまいました。そのため、後日、地区の教頭研修会を計画されていた教育事務所の方々は、訪問できなくなりました。今回は、教育事務所に大脇所長が新たに就任され、十島村の訪問を大変楽しみにされていただけに、まことに残念な結果となりました。



5月20日、レントゲン便は出航しました。台風の余波のため、諏訪之瀬島から宝島へ向かい、その後、悪石島へ向かうという航路となりました。後半は、悪石島から平島へ行き、その後小宝島に行くという変則的なコースとなりました。宝島の校長が小宝島分校を訪問して、その後に宝島に帰るということが実現しました。悪石島に船中泊してから翌日の訪問ということになりましたが、かねての航路では日数のかかる分校訪問が、今回のレントゲン便で実現できたことは、いい機会だったのではないかと思います。

さて、船が5時10分に口之島に着くとすぐに学校へ向かいました。7時過ぎまで、新年度の学校経営方針等を聴いたり施設を参観したりしました。船の都合とはいえ、朝の5時過ぎから7時まで学校訪問をするというのは、私自身初めてのことでした。中之島・諏訪之瀬島の学校で授業参観をし、放課後到着した宝島



では先生方のパワーを感じながら、1日目最後の悪石島に着きました。夜7時過ぎの学校訪問となりましたが、それでも先生方が残ってくださり、いろいろ話すことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

翌日は、平島に7時前に着き、登校してくる子どもたちを迎えることができました。元気に明るくやってくる子どもたちを見て、昨年より倍の人数になったことによる活気を感じました。その後、小宝島分校では、実



質30分という少ない時間の中で、先生方と子どもたちの真剣な取り組みの様子を見ることができました。

駆け足での学校訪問でしたが、それぞれの学校の新たな取り組みなどを見聞することができました。今年の学校も、昨年以上に頑張る先生方や児童生徒の姿が見られることを期待します。

テレビ会議で「トカラ集会」

年々、十島村ではテレビ会議の有効活用がなされてきています。5月11日の土曜授業の日には、児童生徒主体で児童生徒集会「トカラ集会」がテレビ会議で実現しました。中之島小・中学校が当番校で進行を務め、口之島中学校が「エイサー」について発表しました。



十島村の全校児童生徒85名がテレビ会議を通して一堂に会したことになり、記念すべき有意義な集会となりました。しかも、土曜授業の日にできたことは、「豊かな心を育む日」として児童生徒の自治能力を高めるという趣旨からも、有効に活かせる活動となりました。各学校の朝の時間を揃えるという苦労はあったものの、年10回の土曜授業の中で、7回を「トカラ集会」と位置づけたこの活動は、着実に子どもたちの自主活動として定着するものと期待しています。



ものの、年10回の土曜授業の中で、7回を「トカラ集会」と位置づけたこの活動は、着実に子どもたちの自主活動として定着するものと期待しています。

シリーズ—私たちの作文
(平成27年5月10日MBCラジオで放送) 宝島小学校5年 飯田輝星

ぼくが、宝島でじいじとちいばば、姉の4人で暮らし始めて4年がたちます。じいじとちいばばは、ぼくのおじ、おばにあたり、母とはいここになります。姉が「じいじ」「ちいばば」と呼んでいたのが、いつの間にかぼくもそう呼ぶようになっていました。

名古屋で母と住んでいたぼくと姉が、宝島に住むようになったのは、宝島に遊びに来たときに、姉のアトピーがあまり出なかったことが一番の理由でしたが

それ以外にも、島の人たちが気さくに声をかけてくれたことやすぐに友だちができたこと、また、じいじとちいばばが教えてくれる自然の豊かさに、こんな島で過ごせたらきっと楽しいだろうなと感じたことも大きなきっかけでした。

次の年の秋から、宝島でじいじとちいばば、姉の4人での生活が始まりました。

最初は、不安な気持ちもありましたが、じいじとちいばばがいろいろな言葉で助けてくれました。じいじは、野さいを育てています。食べるどれもおいしいです。夏は、海に泳ぎに行ったりつりに連れて行ってくれたりします。最初は「行かないよ。」と言いますが、必ず連れて行ってくれます。テレビでおいしいそうな食べ物やおもしろいものがあると、決まって「テレビに入って取ってこい。」と言います。ぼくは、そういうところが大好きです。ちいばばは、宝島で育った竹の子やつわ、野草、貝、魚などの新鮮な食材を使って、いつもおいしいご飯を作ってくれます。「新しい物の方が僕と姉の体にいいから。」と言って、去年からにわとりも飼うようになり、卵も自家製になりました。植物の名前もよく知っていて、ぼくが聞くとすぐに答えてくれるのですごいなあと感心します。まだ上手にできませんが、魚のさばき方も教えてくれました。洗たくやそうじ、整理整頓のしかたなど、ちいばばから教えてもらったことはたくさんあります。ここでは、町のように欲しいものがすぐに手に入りません。でも、じいじとちいばばは、豊かな自然の中で生活する工夫をたくさん知っています。



今、ふり返ると、ぼくはこの二人の下で生活したから、この4年間があつという間で楽しく過ごせたのだろうと改めて思います。じいじ、ちいばば、心からありがとう。

来々、姉は中学2年生になります。島に高校がないため、姉は後1年余りで母の下へ帰ることになります。でも、ぼくはできることならこの島に残り、これからもたくさんのお話を聞いてほしいと思っています。

人権を考える6月

6月は、特に人権に関する週間や記念日が多くあります。日常はあまり意識しないことが多いかもしれませんが、暦を見ながら少し考えてみませんか。

- 男女雇用機会均等週間
- HIV検査普及週間(6/1～7日)
- 人権擁護委員の日(6/1)
- らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日(6/22)
- 国の男女共同参画週間(6/23～6/29)
- ハンセン病問題を正しく理解する週間(6/22から1週間)



灯

シリーズ—島で暮らす
島に来て学んだこと
悪石島小学校4年 久永ひかり

私は、昨年この悪石島に11歳のお兄さんと一緒にきました。いまでは、家族5人で暮らしています。この悪石島で一番うれしかったことは、先生方がとても優しいことです。でも、去年は3人の先生方とお別れもしました。3人の先生方には本当に優しくしてもらい、お世話になりました。とくに、担任をしてもらった林先生には、何でも知っていて、なんでも私に教えてくれました。林先生が担任でよかったと思っています。林先生と一緒に学校生活を過ごしていると、一日がとても早く感じました。一年間があつという間に過ぎるというのは、いいことでもあるし、悪いことでもあります。去年、そんな頼りになる先生方が島を離れていくということが分かった時は、とても悲しい気持ちになりました。でも、そんな先生方と出会うことで、本当によかったと思います。先生方のことを忘れず、これからも、悪石島で家族と一緒にがんばりたいと思います。

十島村の小・中学校からのメッセージ 39

中之島中学校 教諭 大迫 聡子

「子育てをするにはとてもいいところだよ。」以前中之島で勤務経験のある前任校の校長に聞かされて中之島に赴任した。中之島に来て1年たった今、その通りだと実感している。中2の娘と小4の息子との生活。最初はどうなることかと思ったが、おかげさまで笑いの絶えない毎日である。大興奮ですくったたくさんのトビウオを、悪銭苦闘しながら娘とさばく。「きれいだね。」と星空や夕日を一緒に眺める。船が来なくて食材が日に日に少なくなっていく中、どうやって乗り切るか話し合う…。ここならではの体験を親子で共有できることがうれしい。私たち親子にとって、かけがえのない時間を過ごしていることを幸せに思う。

学校では、全職員が子どもたちを温かく見守られている。親としてとてもありがたく思っている。また、中学校の先生方の鋭い視点や専門的な指導の仕方を間近に見ることができ、教師としてもいい勉強になっている。子供の育ちを9か年という長いスパンで見ることができるようになった。新しいことを学ぶ度に、まだまだ頑張らなければという思いである。「中之島のこの家が一番落ち着く。」と娘は言う。私も同感である。今はこの島が我が家だ。これからトビウオやホタルの季節がやってくる。2年目の今年、中之島をもっと楽しみたいと思っている。

「教職員仲間であるあなた」への私からのメッセージ

十島の学校は、学校や子どもたちを心から大切にしてくださる地域の皆さんに支えられています。そのことを肌で感じられることは教員生活の中で素晴らしい経験ではないでしょうか。十島の家族の一員として、十島での生活を一緒に楽しみ、頑張りましょう。